

分布：全国

# クサネム

( マメ 科)

学名: *Aeschynomene indica*

草合歓

別名：－

## 主な生育場所

水田内、水田畦畔、休耕田、水路、河川敷など、湿った場所に生育する。ときに、転作畑など、湿潤な畑地にも生えることがある。ただし、ずっと湛水されている環境に見かけることはない。

## 特徴

一年草。茎は柔らかく中空で直立し、高さ0.5～1mに達する。葉には托葉があり、複葉は互生し、5～10mmの柄がある。葉の裏面は白味を帯び、光を浴びると左右に開き、暗くなると閉じる。7～10月に葉腋から短柄を伸ばし淡黄色の蝶型花を2、3個総状につける。花後、3～5cmの節果をつけ、熟すと節毎に離れる。種子は暗緑色。



名前の由来：15～30対の小葉からなる羽状複葉が合歓の木(ネムノキ)に似て、木本ではなく草本であるため、草合歓(クサネム)と名付けられた。

## <農業との関係>

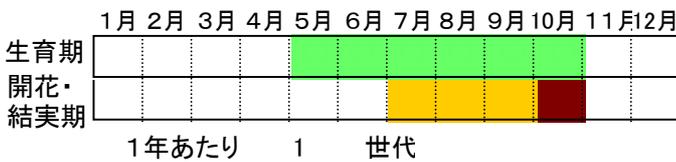
田んぼに生える唯一のマメ科水田雑草。イネ生育期間中の競合はさほど大きくないが、節果がついた状態で稲とともに収穫されると、脱穀・籾すり後の選別時にクサネム種子がちょうど玄米と同じような大きさのため、玄米に混入して等級を下げてしまうため、農家に嫌がられる雑草の一つ。クサネムの種子が混入する可能性がある場合には、色彩選別機を通す必要がある。



淡黄色の蝶型花

## <生活史>

関東地方の例(目安)



## <類似種>

西日本に帰化しているアメリカツクサネムは全体大型で花もクサネムの1cmほどの花と比べて2cmほど、節果の先端には尖った角をつけ、長さ20cmと長い。また、黄色の5弁花をつけるカワラケツメイは乾いた場所に生育する。

## <一言うちく>

クサネム属の学名である *Aeschynomene* (アエスキノメネ) とは、ギリシャ語で「恥ずかしがり」という意味です。これは、日が落ちる頃に、葉が閉じて垂れる様子から名付けられました。しかし、水田等にいったん定着すると、なかなか根絶が難しいたくましい一面も持っているのです。



扁平な線形で無毛の節果。熟すと黒くなり節毎に離れやすい。

## <人との関わり合い>

他のマメ科と同様、根粒をつけ窒素固定するので、緑肥として利用されることがある。また、生薬名を合萌といい、利尿、解毒、気管支炎、麻疹に用いる。

## <俳句や短歌への登場>

【季語：夏】

草合歓手折りぬいまも夢抱く (西尾 栄子)

草合歓はすでにねむれりタぐれの岡のへ来れば空のあかるさ(土田 耕平)

全身で郷愁をゆるす 草合歓のとちるまで (前原 東作)